

市民と市民会議との意見交流会 意見交流の概要（速報）

1. 北部地域

参加者2名

（参加者）

- ・ 今の箕面市を良くしていこうという発表であったが、止々呂美地域の实情と少しあっていないように感じた。止々呂美地域では、地域の崩壊をどう防ぐか、以前の状態にどう戻していくかという問題意識をもっている。そのような問題意識があまり反映されていないというのが第一印象である。
- ・ 箕面森町がまち開きしたが、止々呂美地域としては、農村環境を活かしていこうという方針をもっている。「人が戻らないといけない」、「核となる人に住みついて欲しい」と思っている。朝市をしているが、それは人に来てもらうための手段であって、朝市だけでは生活はできない。主として60歳以上の方が「何とかせなあかん」ということで取り組んでいる。止々呂美のこういった農村環境を残していきたいと思っている。
- ・ 「文化を引き継ぐ」という発表があったが、文化を引き継ぐためには「人」がいる。そういう人をどうやって育てていくか。農業をする人も増えていない。農林業を続け、将来にわたって止々呂美地域の環境を残していける方策がないかと我々も考えている。
- ・ 市民会議の提案は、箕面市全体の視点で考えられている。しかし、地域によってかなり状況は違うと思う。総合計画を考えるのであれば、「この地域は農村環境を残していった方がよい」、「こちらはこういうまちにしたら良い」といったような角度からも検討していただきたい。

（市民会議メンバー）

- ・ ただいまのご意見にもあったように、地域を守っていくことは大変だけれども大切なことだと思う。箕面グリーンロードができたことによって、自然を求めて止々呂美地域に人がやって来るといことがあるのではないかと。そのような仕掛けを考えていきたいと思っている。

（参加者）

- ・ そのような仕掛け、仕組みについては、我々もつくりたいと考えている。しかし、「何かしよう」と思っても初期投資がいる。我々では費用を出せないの、行政に出してもらわないといけない。市民会議の提言が、行政に影響を及ぼすことができるのであれば、「止々呂美地域の環境を残していくために投資すべきだ」という提言をしてもらえると

ありがたい。今は、市役所にいってもお金がないという返事しかかえってこない。また、止々呂美地域をどういう地域にしていきたいのかという考えも持っていないようである。

(市民会議メンバー)

- ・ 農業の応援がしくて、農業祭のボランティアをしている。箕面グリーンロード(トンネル)ができてから6回止々呂美地域に来ている。箕面トンネルを抜けると、市街地と違って、異空間、違う空間であるように感じている。素晴らしい地域だと思う。箕面市民は頑張っている場所を残していかないといけないと来るたびに感じている。朝市などの活動をされていて、農業生産をがんばっておられるように拝見していたが、実情についてもう少しお話をお聞かせいただきたい。

(参加者)

- ・ 止々呂美に来られたら、誰もが「いいところですね」といわれる。しかし、住むという観点から見ると非常に住みにくい地域である。最近までバスも1時間に1本しか通っていなかった。コンビニもない。止々呂美地域は遅れている。昔から変わっていないので、外から来た人は「いいところ」といわれる。ここに住んでいる者としては、「たまったものでない」と感じている。箕面の駅前とは格差がある。
- ・ 農業についても、農業をしているようであるが、それだけでは生活ができない。専業農家は2軒しかない。親の代がしていた農業に比べると大したことはできていない。農地も耕作放棄地がある。山林も放ったらかしである。どんどんと荒廃していく。我々としても、荒れている山を何とかしたいと思っているが、人手がないので荒れていく。しかし、このまま放っておくと土砂崩れが頻発するかもしれない。災害が起こってから工事をすると、その工事の費用は大きなものとなるだろう。今、手を打てば、トータルで見ると費用も少なく済むと思う。問題が起こってから対応すると、かえってお金がかかるということを行政はわかっていないのではないか。
- ・ 止々呂美地域は過疎の町である。大阪が発展するなかで、この地域は取り残されてきた。それを何とかしようと40年前の先輩が頑張ったのが「箕面森町」である。就労対策、生活利便性の向上という地域課題の解決を目指して取り組んできた。箕面グリーンロードができて生活の利便性はかなりよくなった。千里中央や萱野中央にもバスで20分程で行けるようになった。しかし、箕面森町ができたとはいえ、生活の利便性や文化性は市街地に比べて遅れている。市民会議の提案を聞いていると、ソフト面のことを中心に検討されているようである。しかし、たとえば止々呂美の旧の地域には公園は1箇所しかない。道路についても、救急車や消防車が入れないような狭い道がある。急病人が出たら、かなりの距離を担架で担ぎ出さないといけない。ソフト面の充実も大事だが、ハード面での充実についても考えていただきたい。

- ・ 「箕面市には自然があって良い」、「大事にしたい」との提案があったが、止々呂美地域では、猿、猪、アライグマなどの動物により農作物が被害を受けている。「自然を大切に」、「動物を大切に」ということも良いが、その裏の部分についても研究していただき、「農業と自然」、「農業と動物」とをどのように調和させていくのかといったことについても総合計画に取り入れていただきたい。田んぼにフェンスをしている。以前は人が立ち入るのを防ぐことを目的としていたが、今は、鹿や猪を防ぐことが目的となっている。止々呂美地域で農業をしようとする、フェンスで囲わないと農作物が作れない。単に「動物と共存する」といった提案にとどまるのではなく、「こういう施策をした上で動物と共存していく」と提案していただきたい。

(市民会議メンバー)

- ・ 地域が異なると対策も違うということを考えていけないといけないというご意見と受け止めた。例えば、徳島県の上勝町では、山の資源を皆で活用してビジネスを立ち上げられた事例がある。朝市についても、単につくった農産物をお分けするといったことではなかなかビジネスにならない。農産物をどのようにお客さんに届けるのかといった仕組みづくりを考えていくことが必要である。一気にムリかもしれないが、止々呂美地域が抱えておられる課題の解決のために、市内他地域の住民が何かお手伝いできることがあるのではないかと。また、お手伝いできることがあるのであれば、やってみたいと思う。自然との共生についても、猪や鹿に餌場も与えないで放っておくとどんどん里に出てくるようになる。止々呂美地域だけでなく、箕面の市街地にも出てくるだろう。止々呂美の方だけでなく、他地域に住んでいる住民にも何かできることがあるのではないかと。
- ・ 第4次総合計画では地域別計画がつくられているが、土地利用についての内容にとどまっている。市民会議でもまだ議論ができていないが、ご発言を聞いて、「止々呂美再生プログラム」といったようなものが必要ではないかと感じた。土地利用だけでなく、人の問題も含めて、地域別での計画が必要であると感じた。今後2年間をかけて総合計画を策定していく中で、「地域別での計画を策定する」といったことも提言した方がよいのではないかと感じた。非常に重要な問題提起をしていただいたと思う。先ほど、「市民自治社会」をつくらうという提案をさせていただいたが、総合計画をつくってからそれを構築するのではなく、総合計画について地域単位で検討していくことも必要かと思う。いいご意見をいただいた。みんなで議論を進めてまいりたい。
- ・ 先ほど地域で議論されているというお話があったが、それは止々呂美の方だけで議論されているのか。もっと幅広い人も参加して考えていくといったことは考えられないか。参加を市民に広く呼びかけて議論できる場づくりを進めていくことが考えられる。止々呂美地域をどうしていくのかを考えていくための検討会が作れないかと思うが、地域の方にご意見をお聞かせいただければと思う。

(参加者)

- ・ 止々呂美地域では、「まちづくり協議会」においてまちの課題などを検討している。
- ・ 止々呂美地域は、他の地域に比べて格差がある。そこで、「人口を増やそう」、「企業誘致をしよう」と他所に比べて落ち込んでいる所をかさ上げするためにまちづくりをしている。市役所とも話をしているが、財源がないということだと思うようには取組が進んでいない。例えば、止々呂美地域には桜がきれいな場所があるので、桜の名所としてPRしていくことが出来ればと思う。
- ・ 自然が崩壊しているのは山の手入れができていないためである。昔は炭を焼いていたので、山林も低木であり、動物の食べ物も豊富であった。木を切らなくなったので高木となり、動物の食べ物が減り、里に出てくるようになった。山の手入れについて、市民の皆さんに協力していただけると良い。人手がないから山の木を切らないということもあるが、別の理由として、木を切ったときに出てくる芽を鹿がすぐに食べてしまうということを心配している。芽を食べられると木が枯れてしまう。こういったこともあり、木を切りたいという思いはあるが、それを躊躇している。人手がないこともあるが、鹿の害も深刻である。止々呂美地域ではゆずやびわなどを生産しているが、フェンスをしておかないと動物に食べられてしまう。竹林についてもたけのこが小さなうちに猪が食べてしまう。そのため竹林も崩壊している。山林の下草がなくなってしまうと、降った雨が小さな土石流となって流れる。以前はそんなことはなかったのだが、この数年の間に、何度か小学校に避難するということがあった。表面的に自然保護を訴えるのではなく、こういった地域の実情を勉強して提言していただきたい。自然を残すといったことだけをいうのではなくて、裏の部分も勉強して、例えば、保護するだけでなく駆除するといったことも含めてバランスの取れた提言をお願いしたい。

(市民会議メンバー)

- ・ 止々呂美の「まちづくり協議会」の活動には、広く市民が参加できるのか。

(参加者)

- ・ 地域の人しか参加できない。

(司会)

- ・ 市民会議は誰でも参加することができる、本日のようなご意見を聞かせただけだと議論が深まると思う。本日いただいたご意見を大切に、今後、議論を進めていきたいと思う。ありがとうございました。

2. 東部地域

参加者 11 名

(参加者)

- ・ これまで仕事ばかりをしていたが、リタイアして時間ができた。たまたまホームページを見ていたら交流会の案内があったので参加してみようと思った。仕事を通じて様々なことをしてきたので、これからは何とか地元の方々に少しでもお返しが出来ればと思う。このような気持ちを持っていたが、なかなか機会がなかった。住み替えをしようと思っており、吹田や豊中に移ろうかとも迷ったこともあったが、サークル活動でのおつきあいなどもあり、やっぱり箕面がいいなと 8 割方思うようになってきた。箕面の良さにもわかっているが、もう少しコミュニティ活動や、地域が活性化すればよいと思っている。仕事で商業の活性化などにも関わってきたので、何かお手伝いできる機会があれば参加したい。
- ・ 色んな地域に移り住んだが、やはり箕面が好きである。自分も、これから、歳をとっていくことになるが、地域の中で何か自分の存在意義を感じられるようなことに関わりたいと思っている。高齢化が進む中で、こういった考えをもった人が増えていかないとまちは活性化していかないと思う。また、そうでないと財政の負担もふえるだろう。高齢であっても自主的に活動ができて、いきいきと活動ができるまちであって欲しい。以前から総合計画には関心を持っていた。私も何か参加できればと思う。財政についての問題が気がかりである。国定公園があり、所得の高い人が住んでいるというイメージ、箕面ブランドを維持していくことが必要である。「箕面に住みたい」、「箕面に住んでいる人はいいね」などといわれるように箕面ブランドを高めたい。地産地消といった考え方が示されていたが、箕面で事業を起こして、箕面の人買って、消費して、産業化を活性化する。そうして税収が増えるといったことになれば良いと思う。

(司会)

- ・ 地域でお金が回るということは大事ですね。午前中に止々呂美で意見交流会を開いたが、止々呂美という条件でどうしていったらいいのかということが課題だといわれた。

(参加者)

- ・ 知り合いに誘われて参加した。市民会議が活動されていることは知っていたが、パブリックコメントなどで意見を出しても意見が採用されているのかどうか疑問をもっていることもあり、絵空事をいっても仕方がないと考え、これまで参加してこなかった。そのなかで、自分自身でできることを考え、地域で少し活動を始めている。説明の中で「自助・共助・公助」という説明があったが、「公助」が一番最後に並んでいるのが気

に入った。自分自身も自助、共助がまずあって、公助はそれについていくものだと考えている。財政の説明を興味深く聞かせていただいた。元気や介護なども大事であるが、一番大事であり、壁としてたちはだかるのが財政の問題だと思う。財政についてわかりやすい説明をしていただいてありがとうございました。説明にあったが、将来、赤字が300億円とならないように防いでいかないといけない。そのためには、市民が予算を立てるといったことも必要ではないかと思う。市民会議の皆さんが元気なのに驚いた。

(司会)

- ・ 市民会議には市民40名が参加している。市のスタッフ30名も非常に協力してくれる。
- ・ 去年6月から活動をスタートして、最初はなることかと思ったがなんとかここまでできた。今後は提言の肉付けをしていくことが必要である。

(市民会議メンバー)

- ・ 市民会議ではこれから提言をまとめていく。その後、2年かけて計画づくりが行われる。今後ますます市民の皆さんのご意見が必要となる。そのためにも、市民の関心も広がっていかないといけない。わずかな人数で12万市民の全体像を考えるとということでは十分でないと考えている。できるだけ多くの方に参加していただけたらと思う。いつでも会員になってもらうことはできるし、会議の傍聴・発言もできる。その場限りの参加となっても構わないので、一度参加していただければと思う。6つの分科会が昼や夜に開催されているので、どこかに関わっていただくチャンスはあると思う。
- ・ 3人の方からパワーのあるお言葉をいただいて、また、市民会議でがんばろうと思った。ぜひ、3人の方には市民会議に参加していただければと思う。

(司会)

- ・ パブリックコメントの効果について疑問を感じるというご意見には、私も同様に感じている。何か手続き的にされているようにも思う。市民会議は自主的な組織であり、市民の意見が行政の施策に取り入れられるようにしていくことも市民会議の大きな目的である。

(市民会議メンバー)

- ・ 今日、障害当事者の方が来られているのでご意見をお聞かせいただければと思う。

(参加者)

- ・ 聴覚障害がある。今日は、要約筆記があるということで参加した。子育てや食育に関心があるので提案内容はよくわかった。しかし、活動するにあたっては市民全体を巻き込まないといけない。食育が大事だとわかっていると人は動こうとされている。無関心の

人をどのように巻き込んでいくのかといったことについて、もっと突っ込んだお話が聞けるのではと期待していた。これからも引き続き検討を進めていただきたい。障害当事者の意見としては、障害者のことをなかなか理解してもらえないといったことがある。たとえば、自治会活動について、障害があることで会議に参加しなくてもよい、免除されると言われた。健常者には、障害者をフォローしていただきたいと思う。障害者を特別扱いして、別枠にいれるのではなく、健常者の枠の中に連れていく努力をして欲しい。そうなれば、障害者や高齢者などの弱者も安心して暮らせるまちになるのではないかな。

- ・ 箕面に住んでいて、何かできることがあればと思っていても参加のあり方がわからなかった。自分ができることからはじめようと公園について片付けなど気づいたことをしたり、自分でできないことについては行政に電話で頼んだりしている。身近なことについては頑張っていると思っていたが、自分だけでなく、自分から周りに広げていくことが必要だと感じた。「市民会議の皆さん頑張ってください」というのはおかしいことではあるが、自助・共助・公助のあり方について自分なりに考えてみたいと思う。
- ・ 議員をしている。今、地域の中で、市民がどう結びついていくかということが大事だと思っている。箕面小学校の児童から議会に要望書が届いた。1組からは、「温暖化が問題といわれているが結局大人はちゃんと取り組んでいない」、「10年、20年先を考えて木を植えて欲しい」という提案をいただいた。2組からは「夜、塾の帰り道が暗くて怖いので街灯を増やして欲しい」という要望であった。3組からは公園の使い方について、「高齢者はゲートボールをしているのに、子どもがボール遊びをするのは禁止というのはどうなっているのか」、「子どもが思い切り遊べたり、ボール遊びができる公園を作ってほしい」という提案であった。このような、子どものつぶやきを大人がどう応えていくかが大事である。公園の使い方や木を植えるといったことについては、結局地域も関わって考えていくしかない。地域の資源、人をネットワークしていくことが必要。声をかけてつながっていくことが大事である。また、自分の存在意義についても考えていくことが大事である。議員がどのような活動をしているのかがわからないという説明があったが、もっと議会は市民に身近な存在となりたいと思う。いろんな要望やつぶやきを議会に持ってきていただいて、現場で話し合っ、いい仕組みをつくっていったらと思う。

(司会)

- ・ 議会のチェック機能のあり方も大事になってくると思う。議会の仕事が高度になるのではないかな。また、議員間の交流があまりないと感じているがどうか。議員の間で交流して、「何かをしよう!」ということが何かなされているのか。

(参加者)

- ・ 議員同士での交流はあまりできていない。ちゃんとできるようにしたい。子ども達から

木を植えて欲しいとの提案をうけて、鎮守の森を復元していくような活動ができないかと考えている。木を植える取組をしていくなかで、市民や議員がつながっていくことができればと思う。

(司会)

- ・手話通訳の方にもご意見をお聞かせいただければと思う。

(参加者)

- ・本来、手話通訳は意見交換に加わらないが、ご指名があったので一市民としてお話をさせていただく。障害当事者からお話があったように、「障害者とともに生きる」といいながら、存在を無視していることがあるように思う。いっしょに考えていこうと、上からの目線で考える人もおられる。これからは、本当に共にいっしょに箕面で生きていけたらと思う。今日は手話通訳をつけていただいたが、もっとそういう機会が増えたらと思う。箕面市は他都市に比べると機会は多いがもっと増やして欲しい。また、手話通訳をするために事前に資料を読んで勉強して場に望んでも、当日、当事者の出席がなければ帰っていいですと、行政から謝礼をもらって帰るといったこともあったが、それもどうかと思う。当事者が参加できる場を増やして、いろんな面で情報交換がいっしょにできたらと思う。

(司会)

- ・他にご意見があればアンケートに記入して提出してください。ありがとうございました。

3. 西部地域

参加者6名

(参加者)

- ・ 発表を聞いていて基本的な問題は概ね出ていたように思う。箕面市は緑が大きな特色である。田園環境の問題について意見を述べたい。今、市街化調整区域のあり方について検討が進んでいるが、都市計画上の問題として限定された議論がされている。そうではなく、農業、農村、農家と都市が共存していくまちをつくっていく必要がある。小野原西で軋轢があったが、それを繰り返さないまちづくりをする必要がある。市街化区域や市街化調整区域の田園環境をどうするのかというのは総合計画の大きなテーマだと思うので、そこに切り込んでいただきたい。一方、農地は農業だけでなく、財産としての側面もある。もちろん、財産の活用として農地を宅地化する自由はあるが、多くの市民が緑を残して欲しいと考えているなかで、この矛盾をどうしていくのかについて提案してほしい。農家も農地を残したい、適度に処分したいと思う。そのなかで、相続税をクリアする方法もあることはある。専門的な内容になるかもしれないが、そういったことも含めて提案してほしい。

(市民会議メンバー)

- ・ 農地についてのご意見であったが、農業としての維持が必要とっておられるのか、農空間としての維持を考えておられるのか、どちらの方向か。

(参加者)

- ・ 箕面の農地では、効率的に農業生産を担うのは無理があるので、基本は農空間としての維持となるだろう。緑の空間として多面的な機能をどう残していくか。財産としての機能もある。所有者である農家の経済的なメリットも考える必要がある。ひとつは農業生産で、もうひとつは貸し農園のようなかたちで経済的なメリットを考えることができる。地価が高いので現実的ではないが、ナショナルトラストのように公的な資金で農地を買い上げるということも考えられる。山麓保全の取組がヒントになるのではないか。山麓保全のボランティアは他都市でも取り組まれているが、箕面は他都市と違って、市民と山林所有者、行政の三者での協働をうたっている。山林所有者にアンケートをとるなど、所有者の立場を考えながら取組をしている。一つのヒントになると思う。

(市民会議メンバー)

- ・ 農業に関しては、農地を守るということと、農家の後継者をどうつくっていくかということが求められている。若い人には農業は無理なのでは。また、農業では生活ができません。

い。その点をどのように施策としてやっていくかが求められている。農業をせずに農地を持っている人に対して、土地代を払って、若い後継者に農業をしてもらうことも一つの方法かと思う。厳しい言い方かもしれないが農業も変わってきている。農業が崩壊しているのは国策も影響している。農産物を輸入して農業をつぶしてきた。箕面市だけでの問題ではないが、何か施策を考える必要があるだろう。

- ・ 農業を守るのか、農空間を守るのかといった意見があった。いろんな活用方法を考えたらいと思う。食糧危機や食品偽装といった問題がある。今は冷凍食品のほとんどが中国製で、中国製を避けようとしたら買えるものがないといった状況に気づくことができた。食糧危機や食料増産とも関連して考えると、まさに、農業生産を行う場として、農地の保全・継続していくことが、今後必要になってくるように思う。農業後継者も重要な問題であり、Uターン者などを求めて必死に取り組んでいる地域がある。限界集落のような条件の厳しい地域が必死になって取り組んでいることを、箕面でも必死に取り組めば、たとえば、都市的な生活をしながら農業をしたいという若い人も見つかるのではないかと。我々は甘えているのかもしれない。農地がなくなっても困ることはない、限界集落のように必死に努力をしていない。農業生産の場と農地空間を広げていくことに箕面市が独自に取り組むことで、国の考え方をボトムアップで変えさせていくことはできないだろうか。第2分科会で切り込んでいきたい。

(参加者)

- ・ 箕面駅前、毎週土曜日に朝市があるが、毎回長蛇の列となっている。直接生産者が売っているのだから安心して食べることができる。これまで農協に出荷していた生産者も、朝市に出されるようになってきているようである。消費者である市民と生産者が出会う場が増えてきている。これが広がっていくことが大事だと思う。大阪府が農空間に関する条例を制定し、4月から施行となる。農産物の倍増などの目標値なども掲げている。市民と農業者とが直接関係をつくっていくことや、高齢の農家を支える「援農」などのバックアップ体制づくりが急がれると思う。これからリタイアする人が参加できる仕組みづくりが大切である。

(市民会議メンバー)

- ・ 最近、農業をしたいという若い人が増えてきている。しかし、大阪府立大学の先生の話によると、大阪府は、農業をしたいという若い人たちが農地を借りたり、取得するのが難しい地域であるとのことである。今後、調べていきたい。
- ・ 第3分科会の報告のなかに緑被率を維持していくという考えがあった。これは農地の保全の議論とも関わっている。まだ、分科会で十分議論ができておらず、「もっと突っ込んだ検討が必要」というご意見はまさにそのとおりだと思う。市民会議で具体策を提案できるのか、総合計画に位置づけて検討することを求めていくのかはわからないが、生

産体制が鍵を握っている課題だと思う。もう一步踏み込んだかたちで第3分科会で突っ込んで検討したい。

(参加者)

- ・ 池田市には、子どもたちが遊べる公共施設がある。箕面市には図書館やフリースペースはあるが、子どもたちが集まって遊べる場所がない。子どもに対する犯罪があり、危ない目にあったりしているので、そのあたりを考えてもらわないといけない。そうしたことを含めて親が子育てに不安を感じていることが少子化の原因でもあると思う。

(市民会議メンバー)

- ・ 池田市の状況についてももう少し聞かせて欲しい。

(参加者)

- ・ 池田市には児童文化館があり、子どもが自由に来て遊べる。市の職員が子どもたちを見ているので安全である。箕面市にはそういう施設がない。子どもが集まれるのは図書館か、その近くの公園である。公園では子どもたちは集団で遊んでいる。一人で遊んでいる子どもはいない。箕面市にも、絶えず大人の目があって、子どもたちが安全に遊べる場所が必要だと思う。
- ・ コミュニティという言葉がある。これは、ユニオン・オブ・コミュニケーションの略称である。グループごとの活動はあるが、グループごとの活動では広がりがない。自治会、福祉会など、地に足のついたコミュニティの活動が重要である。また、福祉や医療、介護の問題がいわれている。地域医療制度ということで、箕面は救急医療、豊中は中核病院などの役割分担をしている。しかし、地域に信頼できるお医者さんがいないということで市民病院を受診する人が多いため、いつも混雑している。地域の医師会がもっと動く必要があると思う。地域をどう動かしていくのかについて真剣に考えることが必要である。

(市民会議メンバー)

- ・ コミュニティの重要性については、第5分科会でも同様の認識をもっている。地域のことは、地域でと考えている。しかし、現実をみると行政主導型になっている。教育、福祉、消防、防災など個別に動いている。地域の中で最重点課題は何かといったことを協議する体制がないのが課題だと思う。午前中に止々呂美に行ったが、あちらの課題と、西部地区との課題はかなり違う。自分たちで解決できることは自分たちで取り組み、解決できないことは行政とつながっていくといった複層的な仕組みづくりが重要である。地域自治を強化しようということで、近隣では吹田市や池田市、豊中市などが取り組んでいる。全国的にも同様の取組をしている地域がある。どういうやりかたが箕面市にあ

っているのかはわかっていないが、ご指摘と同じような問題意識を持っている。

(参加者)

- ・ 本日の各分科会からの発表を聞いていて、努力されていて素晴らしいと感じた。敬意を表します。経営改革の部会は重要なところに踏み込んでいると思う。市長のイニシアチブによりまちづくり理念条例、市民参加条例などが作られている。書かれている内容は全国に冠たるものであろう。しかし、そのような条例ができていたことを自分は知らなかった。大阪市内のある研究会で他都市の人が箕面の条例をほめていたのを聞いて、はじめて知った。要するに立派な条例はあるが、市民に定着していない、具体化していない。このことを繰り返してはいけない。一部の人だけで考えていてはいけない。全市民的な議論があってはじめて意味があると思う。市民が十分納得したものをつくる必要がある。自治基本条例とまちづくり理念条例の関係をどのように整理するのかを含めて、自治基本条例については、市民的議論を経て練り上げていくものであるということを検討していただきたい。また、議会は平日昼間に開催されているが、サラリーマンは議会に行く必要はないということだろうか。市民と遊離した状態にあるように感じている。市議会において、傍聴者はだまっていなさいということもおかしいと感じている。市民の声を聞きながら、議会は運営されるべきだろう。ヨーロッパはもっとしなやかな方法をとっている。本日のような場が市議会となっている。なかなかそこまで行かないことはわかっているが、検討をお願いしたい。新しい自治基本条例の策定にあたっては、時間をかけてでもいいものを作りたいと思う。

(市民会議メンバー)

- ・ 第4分科会では、障害者や高齢者のことについて検討しているが、当事者が分科会に入っていない。障害者や高齢者にもメンバーになっていただくように呼びかけていった方が、説得力や共感の得られる提案になると思う。今日のように、意見交流で発表ができたのはよかった。次は、本日の内容を障害者福祉センターや高齢者福祉センターに出向いて、発表することができればと思う。そして、当事者の方たちからダイレクトにお話を聞く。当事者からの意見をもっと集めたい。
- ・ 第2分科会は子育てがテーマとなっている。発表内容を小学生でも理解できるように整理して、小学生に対して発表し、小学生の意見を聞いてみてはどうか。また、会議もいつも職員会館でばかりしているが、時には、小学校の講堂で試みてはどうか。周りに小学生に集まってもらってやればよい。会議をする場所についても考える必要があるのではないか。
- ・ 今のご提案は素晴らしいと思う。市民の意見を聞くことは、市民会議が提言する時だけ行うのではなく、普段から意見交換ができるような仕組みを作っていくことが必要であり、そういった提案をしていきたいと思う。

- ・ 西部地区では高齢化が進んでいる。高齢化が進む中で、高齢の医者が廃業している。高齢者がいかにしてホームドクターを確保していくかということも大事である。自治基本条例を作るのは市民だと思う。市民がその気持ちになって作らないといけない。市民合意の上で作らないと意味がない。
- ・ 本日、いろいろとご意見をいただいた。ぜひ、市民会議にも参加いただいてご意見をいただきたい。

(司会)

- ・ 本日はたくさんのご意見をいただき感謝します。できることであれば、市民会議に入っ
ていただいてご意見をいただければと思う。日程はホームページで公表されている。

4 . 中部地域

参加者 14 名

(参加者)

- ・ 第2分科会に関心がある。勉強をしたがっている方が多いので、生涯学習の機会をつくっていただけたら良いと思っていたが提言に入っていた。また、地域と学校との連携についても良くしていきたいと思っていたが、これも提言に盛り込まれるようである。一般的に具体案があまりみられなかった。

(市民会議メンバー)

- ・ 西暦と元号を併記していただきたい。外国の方などには、元号がわからない人もおられると思う。また、外国籍の方は、市民会議に参加されていないように思われる。議会に関して、議会と市民との距離を短くしていくためには、市民が意見・感想を述べることができる機会を作っていくことが有効ではないか。議会に対する関心も高まる。議会基本条例で位置づけるものかもしれない。PTAには親でないとは参加できないと聞いている。第三者として、社会の子どもとして子どもと関わる機会を与えていただければと思う。箕面森町や彩都などの開発が動物の餌場を奪ってきたように思えるが、そうした開発を評価してよいのかどうか。

(箕面市)

- ・ PTAは、その名の通り、基本的には保護者による会である。学校評議会など学校現場には、PTA以外にも地域の方が関わる機会はある。コミュニティスクールということで、地域との関係を広げていく流れにある。
- ・ 市民会議の皆さんが積極的な活動をされ、非常に上手くまとめていただいている。まとめの精度は高いと思う。職員だけでこれだけのまとめができるかなと思うほどである。こういった市民会議による取り組みは、日本のなかでも誇れる方法となるのではないか。最後の提言に向けて引き続きがんばっていただきたい。

(司会)

- ・ お褒めの言葉をいただきましたが、みなさん、気持ちを引き締めて取り組んでいきましょう。

(参加者)

- ・ 第1分科会の説明に「全国No.1」という表現があったが、「オンリーワン」でよいと思う。競争するよりも独自性を出す方がいいと思う。セラピー施設については良いご

提案だと思うが具体策はあるのか。第2分科会の説明の中に「市民参画で作ったものがよくないこともある」とあるが、どのような観点からこのようなまとめとなったのか。第3分科会の説明の中に「環境アセスメント」とあるが、どのように考えているのか。また、緑の基本計画について考えていることを教えてほしい。京都景観条例についてはどういったところを取り入れていこうと考えているのかについて教えて欲しい。

(市民会議メンバー)

- ・ 第1分科会でいろいろと話し合い、やっぱり「No.1」がいいねということになった。子どもが元気なまちの全国NO.1にしたいという思いを込めている。セラピー施設については、1事業者、1市民ができるのではなく、今ある環境を上手く使おうと考えている。事業者や行政、市民が協働して取り組むことができればと思う。そのなかで、例えば市民は、山のガイドとして参画することが考えられる。
- ・ 「市民参画で作ったものがよくないこともある」と述べているのは、箕面市に限った話ではない。市民参加のなかで市民が社会とふれあい成長していく、人材が育っていくことが大事だと考えている。自立性をもって社会性を考えるように育って欲しいと考えている。
- ・ 環境アセスメントのあり方については、ご意見をお伺いしたいと考えている。分権が進む中で、アセスメントの規模、あり方について見直していくことも必要と考えている。環境アセスメントを20~30年前に行った事例についても、その後問題がみられるようになってきているのであれば見直していくことも必要と考えるが、ご意見をお聞かせいただければと思う。「緑の基本計画」については緑被率を高めていきたいと考えている。農地空間の位置づけなどもあわせて考える必要があり、ご意見をお聞かせいただきたい。京都景観条例については、京都がいろいろな文化を継承していることから、京都の文化を守る仕組みやシステムを学び取り入れていきたいと考えている。

(市民会議メンバー)

- ・ 箕面の滝のしぶきにあたると癒されるという方がおられたが、足を悪くされて、駐車場から行くことも難しくなった。観光シーズンだけでも人力車のようなもので連れていってもらえるようなことができればと思う。電気自動車という方法があるかもしれないという提案をいただいたことがあるが、電気自動車を安く借りられたり、無料で貸してもらえそうな方法あれば教えて欲しい。また、森で音楽を聴こうということで、森の音楽会という取組をしている。こちらについてもご協力をお願いします。
- ・ 電気自動車というお話があったが、「ベロタクシー」という方法もある。ドライバーが一人で、お客さんが2名まで乗れる自転車、タクシーのようなサービスをしている。全国的に広がってきている。ボランティアではなくドライバーも1日1万円ぐらいの収入が得られる仕組みとなっている。最近は観光地だけでなく、塾帰りの子どもの送迎な

どもにも利用されるようになっている。インターネットで調べるとすぐに情報が得られると思う。何か具体的なサポートが受けられるかもしれない。

(参加者)

- ・ 第4分科会の「命の森を豊かにする」というのは素敵な言葉である。障害のある人の声に寄り添って、じっくり聴いていただいていることに感謝します。高齢者に関して、メインが介護予防となっている。それが大切なテーマであることは間違いないが、それだけに絞られるのが怖い。健康は大事にしたいと思うが、障害をもったり、健康を守れない事態に遭遇するかもしれない。そういう時にいきいきと暮らせるまちづくりという視点も大事だと思う。障害当事者だけでなく、先ほどのご意見にもあったように外国籍の方、一人親の家庭など、様々な立場の当事者(マイノリティ)のご意見も聞いていただければと思う。

(市民会議メンバー)

- ・ 貴重なご意見をありがとうございます。これからもいろいろとご意見をいただいて、検討を進めていきたいと思う。
- ・ 介護については第4分科会の中においてもまだまだ議論をしている途中である。「介護予防」と「介護と上手につきあう方法」の2つにしてもよいかもしれない。
- ・ 本日は、市長をはじめ議員も参加されていることから、議会改革や自治基本条例についてのお考えをお聞かせいただければと思う。

(参加者)

- ・ 第4次総合計画を策定する際の審議会委員をしていた。市民参加の手法も取り入れられていたが、不完全なように感じており、不満を抱えながらも賛成したという経緯がある。今回の市民会議の流れはすばらしい。短時間までよくここまで、また、サポートスタッフと協力して積み上げてこられたと思う。先ほどの発表のなかで、「元気がなくなった」という説明があったが、私は、市民の皆さんが元気になったからこそ、本日のような発表に結びついたのだと思う。人は元気になっていると思う。この勢いで自治基本条例まで取組を進めていっていただければと思う。私は、市民参加から市民協働に、そして、市民主権になっていくべきだと考えている。市役所は市民をサポートする組織だと思う。
- ・ 自治事務については、自治体の意識が反映・尊重されるべきだという理念があるが、現実的にはそうはなっていない実情がある。まだまだ対等な立場で主張していくということが難しい部分がある。議会基本条例については会派で検討している。議会はもっと市民に開放される必要があると思う。まだまだ多くの市民が知る機会がない。市民が参加しやすい時間帯に議会を開く、インターネット中継をするなどの方法が考えられる。市民会議から提案をいただき、議会においても検討していきたい。議会が開かれることに

より、市民が政治に関心を持つようになっていく。これを進めていく努力を重ねていきたい。

- ・ 発表をきかせていただいて素晴らしい発表になっていると思う。「公助」についての表現が気に入った。「公=行政」という考えを否定するところから「新しい自治」というものが生まれてくるのではないか。暮らしの課題という点では、「買い物」についての検討が必要と思われる。商店街や個別の店舗だけでなく、大きなスーパーも含めて位置づけが必要だと思う。また、「持続可能な社会」については、環境の持続性だけでなく、例えば商店街を含めた経済の持続性、福祉や弱者などの社会の持続性も含めた総合的な議論が世の中の議論となっている。こういう考え方が計画全体を貫くビジョンとして示されれば、計画全体が魅力的になるような気がする。
- ・ 財政健全化条例の制定とあるが、条例を作ることが目的になるとよくないと思う。土日議会についても、土日に開いても傍聴者がいないので2年間でやめたという自治体がある。大阪府の傍聴者が増えているのは、原稿を朗読するのではなくて、その場の雰囲気の中で回答するというライブ感があるからだと聞いている。開かれた議会、政策決定のプロセスの透明化がないといけない。そうでないと議会が形骸化すると思う。
- ・ 自治基本条例については大和市が素敵な作り方をされていると思う。市民と行政、「つくる会」の人たちが70回も会議を重ねて条例案を策定されている。議会において修正がされたようであるが、直接民主主義、間接民主主義の2つをうまくプロセスにとりいれながら議論していくことが大切である。

(司会)

- ・ 条例の内容を提案するところまではいかないかもしれないが、市民会議の立場として作成プロセスなどについては検討していきたいと思う。

(市民会議メンバー)

- ・ 市民の行動目標、市民がどういう役割を担えるかといったことを総合計画に盛り込んでいきたいと考えている。

(司会)

- ・ 市民会議のコーディネーターをしていただいている阿部さんからコメントをいただきたい。

(阿部さん)

- ・ 私もし内に住んでいるが、市民として役割を果たしているかといわれると少し気になるところがある。しかし、本日の発表をきかせていただいて、まさに「元気」になったというのが本音である。市民の力でここまで取り組むことができるまちなんだと元気をい

ただいた。わざわざ、意見交流会のためにわざわざパワーポイントのソフトを買って練習した方もおられるそうである。そういう方がおられるということだけでも、我々は、箕面のまちは成熟しつつあるまちだと思ってよいと思う。

- ・ その上で、先ほど、これだけの提案が職員に作れるかどうかというご意見があったが、私は「できない」と思う。なぜなら、これは行政の計画でないからである。行政がこれから 10 年間何をするのかという計画であれば職員はそつなく作れると思うが、今、市民会議が提案しようとしているのは、行政にしてもらいことを述べるのではなく、その前に、市民として何ができるのかということ一度考えてみようということである。行政に求める前に、自助・共助を考えるということで表現しようとしている。それを行政がやろうとすると、行政から市民に要求することになるので「できない」と申し上げた。従来の総合計画を超えて、豊かでふくらみのある計画を作ろうとしていることは高く評価できる。先進的という自治体はそういう方向に向かいつつある。行政としての総合計画を超えて、そこに住まう人、行政だけでなく、みんなでいい地域にしていくためのプラン、青写真としての方向で総合計画が活用されてきている。期待がもてるし、半年間いい方向で進んできていると思う。
- ・ 昨日 3 箇所意見交流会をして、今日が 4 回目となっている。止々呂美地区では、止々呂美の課題がきちんとわかっているのかという趣旨のご意見があったと聞いている。市民会議のみなさんは献身的に取り組んでおられるが、一方で、市民全体の声や悩みがわかっているのか、反映できているのかと悩んでおられる。しかし、それは健全なことである。その悩みを通してよい提言をつくっていただきたいと思う。今、市民会議に加わっていない方が、市民会議に意見を届けるプロセス、この意見交流会もその一つですが、そういった取組がもっと活性化していくとよい。様々なかたちで市民から市民会議に意見を届けるということが活発化すると、もっといい提言になっていくと思われる。
- ・ ベロタクシーは良い事例である。共助というのはボランティアだけではない。共助として市民で助け合うことに、お金が介在してもいいと思う。誰かが犠牲になって誰かを助けるということだけでなく、高齢者が使いやすいお店がたくさんある、障害者が利用しやすい有料の乗り物があるなど、コミュニティビジネスという言葉が使われるが、ビジネスとして共助が成立しているのが一番いいことである。まちのなかでお金が循環するなかでみんなが豊かになる、いい生活できるのが理想的である。お金を介在した共助、もっとふくらみのあるものとして考えていったほうが良い。そういう共助が、箕面のまちづくりの核になるという方向で考えていってもらえればと思う。
- ・ 議会、自治基本条例、財政健全化条例などの提案があったが。ルールがあればいい、ルールを守ればいいということだけではなくて、ルールを使って何をしていくのかというその先が重要である。ただ、かたちどおりに条例をつくるのではなくて、何のためにということが必要となる。10 年前にこのまちは先駆的な条例をつくった。しかし、つくった条例が生きていますか？ということになると疑問が残るところもあるのではない

か。同じことが議会基本条例、自治基本条例にもあてはまる。条例を生かしていく、生き続けられるものをつくっていくことが大事。総合計画も同様である。できて積んでおくだけの総合計画であれば意味がなく、そうならないようにプロセスとして市民会議がある。市民会議のみなさんも、文章をつくることが目的だとは思っていないと思う。市民会議は提言をつくるが、その提言が策定委員会や審議会、さらには総合計画に反映され、また、その先にも関わっていきたいと思っている人が多いと思う。この市民会議が一つの起爆剤、きっかけとなって、市民、議会、行政などが協働して、いい地域をつくっていくことができればと思う。一市民として微力ながら協力していきたい。

(司会)

- ・ ありがとうございます。活かされた総合計画、表紙がきれいでなくても中身が生きる総合計画をみんなで作っていきたいと思います。ありがとうございます。